

かゆいところに手が届く！ —多摩・島しょ自治体お役立ち情報—

「かゆいところに手が届く！多摩・島しょ自治体お役立ち情報」は、市町村の職員が日頃の業務で感じている疑問や他の自治体、民間企業などの動向、今さら聞けない行政用語など、知りたいと考えている事項について自治調査会が調査し、問題点や課題などを明らかにすることを目的に実施しています。

公立図書館のコロナ禍での運営について

調査部研究員 小平 円（日野市派遣）

1. はじめに

図書館というと皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。多くの方は図書を借りられる場所を思い浮かべるのではないのでしょうか。そのほかにも住民の学習及び文化活動に貢献する役割を担う側面があります。そのため図書の貸出し以外にも閲覧室（自習室）の開放や、幼児向けのおはなし会のようなイベントも行っています。このように図書館はさまざまな年代の利用者が来館し、図書をはじめとしたさまざまな物に触れる場所でもあります。

一方では、新型コロナウイルスの国内最初の感染者が日本で発見されてから、約2年が経過しました。これまで各自治体において、各部署では感染症対策を講じてきたものと思います。不特定多数の利用者が来館し、物に触れる機会が多い場所である図書館では、新型コロナウイルスに対してどのような対策を講じて住民の学習機会の提供及び文化活動に貢献してきたのでしょうか。

本稿では公立図書館の感染症に対する取組について、多摩・島しょ地域自治体の状況をアンケートした結果を報告します。また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に電子書籍を導入した事例、島しょ地域の自治体における公立図書館の取組及び感染症対策について参考となる事例を紹介したいと思います。

2. 多摩・島しょ地域自治体の状況

多摩・島しょ地域自治体の状況を調査するため、公立図書館の設置状況や実施している感染症対策等について調査しました。

多摩・島しょ地域自治体アンケート概要

対象自治体：多摩・島しょ地域39自治体
対象部署：各自治体中央図書館
（各自治体で中心となる図書館）
実施時期：2021年11月8日～22日

(1) 図書館の設置及び図書取扱いの概要

多摩・島しょ地域自治体では、ほとんどの自治体（35自治体）が公立図書館を設置していました。設置していない自治体は、島しょ地域の4自治体でした。

また公立図書館を設置している自治体では、ほとんどが日本図書館協会資料保存委員会（図書館の成長・発展に寄与する活動を展開している団体）が作成した「図書館資料の取り扱い（新型コロナウイルス感染防止対策）」について—人と資料を守るために—を参考にしており、図書を取り扱う際に、手指の消毒について重要視していることが分かりました。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策

図表1は、図書館においてどのような対策が取られたかをグラフにしたものです。「館内の

利用時間の制限」をした自治体が29自治体。「職員が図書の個別消毒」を行った自治体が26自治体。この2つが多い結果となりました。次いで、「図書返却ボックスの利用」を促したが20自治体。「図書を消毒する消毒器の設置」と「予約限定の窓口の設置」が18自治体と同数で続いています。

消毒及び人との接触をなるべく避ける取組を徹底していることがうかがえました。

▼図表1 新型コロナウイルス感染症対策

選択肢	回答した自治体数 35 (複数回答)
職員が図書の個別消毒を行った。	26
職員又は利用者が図書を消毒する消毒器を設置した。	18
電子書籍を導入した。	8
宅配サービスを行った。	2
館内の利用時間の制限(1人1時間など)をした。	29
住民が一度手に取った本は本棚に戻さず、一箇所回収するようにした。	7
予約限定の窓口を設置した。	18
図書返却ボックスの利用を促した。	20
館内の混雑状況をインターネットで分かるようにした。	1
その他	14

その他に挙がっていた項目としては、

- ・手指消毒液の設置
 - ・非接触型カメラ式検温器の設置
 - ・閲覧席の縮小
 - ・閲覧席での飛沫防止パネルの設置
 - ・カウンターへの飛沫防止パネルの設置
 - ・来館者へマスク着用等のお願いの館内放送
 - ・職員のマスク着用
 - ・定期的な換気
 - ・定期的な共有部分の消毒
 - ・返却本の表紙消毒及びバックヤードで3日間陰干し
 - ・スリッパや学習室の利用後の消毒作業
 - ・キッズスペースの撤去やカウンター列のソーシャルディスタンス協力を促す掲示
- <臨時休館中は>
- ・図書の貸出期限の延長
 - ・予約図書の置き期限の延長
 - ・インターネットを介した音楽配信サービスのIDとパスワードを電話申込みで発行

<自治体の感染症アドバイザーからの指摘>
モノの消毒より手を安全に保つ考え方から、
・消毒液の増設
・トイレの自動水栓化

などが主な内容です。

手指消毒液の設置など、図書館以外の施設でも取り組んでいる内容を含め、多くの事例がありました。また、返却本の表紙消毒及びバックヤードで3日間陰干しなど、図書館特有の取組もありました。

(3) 感染症対策は関係なく、利用者サービスの一環として行っている項目

感染症対策を以前から行っていた、あるいは感染症拡大時期に開始した利用者サービスの項目も調査しました。その結果、宅配サービスが最も多くなりました。宅配サービスは、主に高齢者、障害者、妊婦の方など、図書館への来館が困難な方のための制度であるため、新型コロナウイルス感染症対策とは別で、利用者サービスの一環として取り組んでいます。

▼図表2 感染症対策は関係なく、利用者サービスの一環として行っている項目

選択肢	回答した自治体数 35 (複数回答)
職員が図書の個別消毒を行った。	3
職員又は利用者が図書を消毒する消毒器を設置した。	5
電子書籍を導入した。	4
宅配サービスを行った。	20
館内の利用時間の制限(1人1時間など)をした。	1
住民が一度手に取った本は本棚に戻さず、一箇所回収するようにした。	2
予約限定の窓口を設置した。	1
図書返却ボックスの利用を促した。	8
館内の混雑状況をインターネットで分かるようにした。	0
その他	1